

- 問1 北海道、茨城県、新潟県、鹿児島県の4道県の農業産出額の内訳を比較したとき、鹿児島県の統計的な特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2020年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|----------------------------------|
| 1. 米、野菜、畜産の産出額がほぼ同等であり、特定の部門に偏らない多角経営が行われている | 2. 野菜の産出額が最も多く、近隣の巨大消費地へ向けた近郊農業が中心となっている | 3. 総産出額の半分以上を畜産が占めており、その額は3,000億円を超えている | 4. 総産出額の半分以上を米が占めており、畜産の割合は極めて低い |
|--|--|---|----------------------------------|
- 問2 鹿児島県では農業産出額が全国トップクラスであるとともに、製造品出荷額の第1位を「食料品」が占めています。このように、鹿児島県の工業において食料品工業の割合が高い理由として最も適切な説明はどれですか。 (2016年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 大規模な港湾施設を活かして海外から安価な穀物を輸入し、臨海部のコンビナートで加工してから全国に配分しているため。 | 2. 広大な平野を利用した稲作が中心であり、余った米を酒類や菓子類に加工して大都市圏へ大量に輸送する体制が整っているため。 | 3. 高速道路沿いに半導体工場などの先端技術産業が集積したことで、そこで働く労働者向けの冷凍食品製造が急増したため。 | 4. 県内で盛んな畜産業や畑作によって生産された農畜産物を原料とし、それらを加工して付加価値を高める産業が発達しているため。 |
|---|---|--|--|
- 問3 北九州工業地域の工業出荷額を産業別に見た際、機械工業や金属工業とともに主要な割合を占める産業があります。この産業の工場が、福岡県北九州周辺の沿岸部に集中して分布している主な理由として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 原料となる農産物を、近隣の平野部から短時間で集荷できるため | 2. 海外から輸入する原料の搬入や、完成した製品の船舶輸送に便利のため | 3. 内陸部と比較して地価が高く、企業としてのブランドイメージが高まるため | 4. 製品の鮮度を保つ必要があり、消費地である都市部に隣接しているため |
|----------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
- 問4 九州地方の農業と人口に関する統計において、人口密度が1024.1人/km²と1000人を超えて非常に高い県と、豚の産出額が723億円に達し畜産業が盛んな県の組み合わせとして、最も適切なものを選択してください。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 人口密度の高い県：福岡県、豚の産出額が多い県：鹿児島県 | 2. 人口密度の高い県：福岡県、豚の産出額が多い県：大分県 | 3. 人口密度の高い県：沖縄県、豚の産出額が多い県：熊本県 | 4. 人口密度の高い県：熊本県、豚の産出額が多い県：鹿児島県 |
|--------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
- 問5 日本の品目別の食料自給率と小麦生産の実態について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 近年、米の自給率は小麦と同程度の10%から20%まで急落しているが、それを補うために福岡県や熊本県といった九州地方での小麦増産が進められている。 | 2. 日本の小麦自給率は極めて低いため、国内での生産は北海道のみに限定されており、九州地方などの他の地域ではほとんど生産されていない。 | 3. 小麦は米と同様に自給率が非常に高く、国内の需要をほぼ賄うことができているため、九州地方の全県が収穫量で全国トップ10に入っている。 | 4. 米の自給率は100%に近い水準を維持しているのに対し、小麦の自給率は10%から20%の間と低く、国内では北海道のほか、九州地方の福岡県や佐賀県などが主要な産地となっている。 |
|---|---|--|---|
- 問6 北九州工業地帯は、明治時代に官営八幡製鉄所が建設されて以降、日本の重工業を支えてきました。この地域の産業構造の変遷と現状について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 瀬戸内工業地域と同様に、大規模な石油化学コンビナートが形成され、化学工業が主要な産業となっている。 | 2. 近年は自動車工場などの進出が進み、金属工業に代わって機械工業の割合が最も高くなっている。 | 3. 豊富な石炭資源を背景に、現在も鉄鋼業を中心とした金属工業の割合が製造品出荷額の過半数を占めている。 | 4. 沿岸部の埋め立て地に大規模な製粉・製糖工場が集まり、食料品工業が産業の柱へと成長した。 |
|--|---|--|--|
- 問7 九州地方の各県の産業的特徴を説明した次の記述のうち、宮崎県に該当するものとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 大規模な平野部を利用した米作りと、有明海沿岸でののり養殖が産業の中心となっている。 | 2. シラス台地が広がる地形を活かして、茶の栽培やサツマイモの生産が全国で最も盛んに行われている。 | 3. 温暖な気候や広大な土地を活用した畜産業が盛んであり、特にブロイラー（食用鶏）の産出額が全国トップクラスである。 | 4. 都市機能が高度に集積しており、金属製品などの製造業出荷額と宿泊旅行者数の両方で九州最大の規模を誇る。 |
|--|---|--|---|
- 問8 1960年代の北九州市は、重化学工業の発展に伴って深刻な環境問題に直面しました。この状況を克服し、現在は環境モデル都市として知られるようになるまでに行われた取り組みの説明として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 二酸化炭素の排出を抑えるため、太陽光発電などの再生可能エネルギーのみを全産業の動力とした。 | 2. 地震や津波などの自然災害に備え、沿岸部の工場地帯を解体して内陸部へ居住区を移した。 | 3. 市民、企業、行政が互いに協力し合い、汚染物質の排出規制や技術開発によって改善を進めた。 | 4. 全ての工場を市外へ移転させることで、工業都市から観光都市への全面的な転換を図った。 |
|--|--|--|--|
- 問9 鹿児島県の地形別面積割合に関する統計において、台地の占める割合は約20.8パーセントとなっており、全国平均の約11.2パーセントと比較して非常に高い数値を示しています。このように、過去の火山活動による火山灰などの噴出物が厚く積み重なって形成された、九州南部に広がる台地を何と呼びますか。 (2017年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|---------|----------|
| 1. 砂丘 | 2. 扇状地 | 3. カルデラ | 4. シラス台地 |
|-------|--------|---------|----------|
- 問10 1980年から2000年にかけての九州地方における工業出荷額の内訳の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 加工組立型産業が海外移転により衰退し、再び鉄鋼や化学などの重化学工業が中心となった。 | 2. 食料品などの生活関連型産業が急増し、工業出荷額において電気機械を上回り首位となった。 | 3. 石油化学コンビナートの増設により、化学工業の出荷額が電気機械の出荷額を大きく引き離れた。 | 4. 鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の割合が減少し、電気機械などの加工組立型産業の割合が増加した。 |
|---|---|---|---|
- 問11 沖縄県に見られる伝統的な家屋の特徴について、その構造と目的の組み合わせとして最も適切なものを選びなさい。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 床を非常に高く作る高床倉庫の仕組みを取り入れ、風通しを良くして湿気を防いでいる。 | 2. 屋根を急傾斜の茅葺きにし、冬の厳しい積雪の重みに耐えられるようにしている。 | 3. 外壁を厚い土壁にし、窓を小さく作ることで、冬の寒冷な空気が室内に入るのを防いでいる。 | 4. 屋根の瓦を漆喰で固め、周囲を石垣で囲むことで、台風の強風から家屋を守っている。 |
|---|--|---|--|
- 問12 九州地方の各県について述べた統計資料において、地熱発電量が「879」と他の県に比べて突出して高く、人口密度が約181.7人/km²である県に該当するものとして、最も適切なものを選択してください。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 大分県 | 2. 宮崎県 | 3. 鹿児島県 | 4. 福岡県 |
|--------|--------|---------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 総産出額の半分以上を畜産が占めており、その額は3,000億円を超えている	鹿児島県の農業産出額は全国でも上位に位置しますが、その最大の特徴は部門別内訳にあります。米が中心の新潟県や、野菜の割合が高い茨城県とは異なり、鹿児島県は畜産の産出額が非常に大きく、県全体の農業産出額の5割以上を占めています。具体的には豚、肉用牛（黒毛和種）、鶏（ブロイラー）のいずれも全国トップクラスの生産量を誇っており、シラス台地という土地の制約を克服した産業構造となっています。
問2	答え 4 県内で盛んな畜産業や畑作によって生産された農畜産物を原料とし、それらを加工して付加価値を高める産業が発達しているため。	鹿児島県は、シラス台地の特性を活かした肉用牛、豚、鶏などの畜産業が日本屈指の規模を誇ります。これらの地元の農産物を原料として、精肉加工や缶詰、焼酎、菓子などの「食料品」へと加工する工業が地域に根付いているため、農業と工業が密接に関係しながら産業構造を形作っています。
問3	答え 2 海外から輸入する原料の搬入や、完成した製品の船舶輸送に便利なため	北九州工業地域の化学工業は、石油や天然ガスなどの原料を海外から大型船で輸入し、大規模な設備で加工した製品を国内外へ輸送する形態をとっています。そのため、物流コストを抑えることができる港湾に近い沿岸部が立地として極めて有利になります。かつて官営八幡製鉄所を中心に金属工業が発展した際も、同様の理由で沿岸部が選ばれ、現在の化学工業の集積にもつながっています。
問4	答え 1 人口密度の高い県：福岡県、豚の産出額が多い県：鹿児島県	福岡県は九州地方の政治・経済・文化の中心地であり、人口が約510万人に達し、人口密度も1000人/km ² を超える都市化が進んだ県です。一方で、鹿児島県はシラス台地が広がる土地条件を活かして豚や肉用牛などの畜産業が非常に盛んであり、豚の産出額は全国でも有数の規模を誇ります。
問5	答え 4 米の自給率は100%に近い水準を維持しているのに対し、小麦の自給率は10%から20%の間と低く、国内では北海道のほか、九州地方の福岡県や佐賀県などが主要な産地となっている。	日本の食料自給率は品目によって大きな差があります。主食である米は国内でほぼ自給できていますが、小麦は海外からの輸入に頼る割合が高く、自給率は10%から20%程度の低い水準にとどまっています。しかし、国内での生産も継続されており、広大な農地を持つ北海道が最大の産地であるほか、九州地方の福岡県、佐賀県、熊本県などは全国的に見ても非常に高い収穫量を誇る重要な産地としての役割を担っています。
問6	答え 2 近年は自動車工場などの進出が進み、金属工業に代わって機械工業の割合が最も高くなっている。	北九州工業地帯は、かつては筑豊炭田の石炭と中国からの鉄鉱石を利用した官営八幡製鉄所を中心に、金属工業が圧倒的な割合を占めていました。しかし、エネルギー革命による炭鉱の閉鎖や産業構造の変化を経て、現在は自動車産業を中心とした機械工業が発展しています。製造品出荷額の内訳でも、機械工業が約4割を占め、金属工業を上回る構成へと変化している点が重要な特徴です。
問7	答え 3 温暖な気候や広大な土地を活用した畜産業が盛んであり、特にブロイラー（食用鶏）の産出額が全国トップクラスである。	九州地方南部は、温暖な気候を背景に畜産業が非常に盛んな地域です。特にこの県では、統計においてブロイラーの産出額が700億円を超えるなど、全国でも有数の農業県としての地位を確立しています。一方で、金属製品の出荷額や宿泊旅行者数などの指標では、都市型の産業構造を持つ福岡県とは異なる傾向を示します。
問8	答え 3 市民、企業、行政が互いに協力し合い、汚染物質の排出規制や技術開発によって改善を進めた。	かつて北九州市は「七色の煙」と呼ばれるほどの大気汚染や、洞海湾の深刻な水質汚濁に悩まされていました。この状況に対し、まずは子どもの健康を心配した市民（母親たち）が立ち上がり、企業や行政に働きかけました。その結果、三者が一体となって対策を講じる体制が整い、厳しい排出基準の策定や企業の技術革新が進んだことで、環境問題の克服に成功しました。この経験は現在、国際的な環境協力にも活かされています。
問9	答え 4 シラス台地	九州南部に広がるこの台地は、過去の巨大噴火による火砕流の堆積物（シラス）や火山灰によって形成されました。水はけが非常に良く、水持ちが悪いため、古くから稲作には不向きとされ、サツマイモや茶などの畑作、あるいは大規模な畜産業が発展する要因となりました。鹿児島の地形的な特徴を語る上で欠かせない要素です。
問10	答え 4 鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の割合が減少し、電気機械などの加工組立型産業の割合が増加した。	九州地方では、かつて北九州工業地帯を中心に鉄鋼や化学といった「基礎素材型産業」が盛んでしたが、1980年代以降、空港周辺や高速道路沿いにIC（集積回路）などの工場が進出したことで「シリコンアイランド」と呼ばれるようになりました。これにより、電気機械や輸送用機械に代表される、部品を組み立てて製品を作る「加工組立型産業」の割合が大きく上昇し、産業構造の転換が起こりました。
問11	答え 4 屋根の瓦を漆喰で固め、周囲を石垣で囲むことで、台風の強風から家屋を守っている。	南西諸島の家屋は、高温多湿で台風が多いという厳しい自然環境に適応した形をしています。瓦が風で飛ばされないよう継ぎ目を漆喰（しっくい）で塗り固める工夫や、家を囲うように配置された石垣、さらには防風林としての役割を持つフクギの植栽などは、いずれも台風による強風被害を軽減するための伝統的な知恵です。積雪対策や防寒対策は、主に日本の積雪寒冷地に見られる特徴です。
問12	答え 1 大分県	大分県は別府温泉や由布院温泉に代表されるように火山活動が活発な地域であり、その熱エネルギーを利用した地熱発電の発電量が国内で最も多いことが特徴です。統計資料に示された高い地熱発電量は、この地理的特性を反映しています。